

会議結果のお知らせ

- 1 開催した会議の名称 平成27年度 第1回佐伯地域振興審議会
- 2 開催日時 平成27年9月9日(水) 午後7時00分～午後9時10分
- 3 開催場所 佐伯市役所 本庁舎 6階 第2委員会室（佐伯市中村南町1番1号）
- 4 出席者
会長：本田房代 副会長：今山哲也
委員：御手洗金重、戸山恵子、児玉芳江、川下喜代人、岡上八重子、鈴木良子、平川高史
委員10名中9名出席

(市職員等)
地域振興課長：田嶋隆虎
地域振興係：中河良浩、藤原直也、河野誠、渡辺敦

計5名
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 0人
- 7 開催内容
 - ・委嘱状交付（出席者に委嘱状の交付）
 - ・会長、副会長選任について、会長に本田委員、副会長に今山委員とすることを決定した。
 - ・地域振興審議会の位置づけと役割、任期等について、事務局より説明
 - ・活性化チャレンジ事業の要綱変更について、審議会との関わりを事務局より説明
 - ・諮問事項について、事務局から内容について説明をし、諮問事項について審議を行った。

8 議事抄録

事務局：諮問事項である「佐伯市人口シミュレーション案について」及び「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台」について説明を行い、委員より意見を求めた。

※以下は、会議の抄録であり、実際の発言と言い回しが異なる部分がありますので、ご了承下さい。

会 長：今日は、諮問に対して答申という形ですね。

事務局：答申という形はとりますけど、この部分がいいとか悪いという形ではなく、広く皆さんの意見を頂いてそれを箇条書きのような形で、こんな意見ができました、こういうことを政策に反映して下さい。というような形で答申にさせていただきたいと思っております。

会 長：では、意見を言っていたらいいと思います。意見を頂くときは挙手でお願いします。

- 委員：婚活をしてほしい。結婚をしない人が多い。私の職場でも独身者がすごく多いと感じます。また、学校では不登校の子が多い。外に出る子が少ない。その辺の所から改善が必要なのかなと思います。それから、都会に行きたいという子が多い。そういう子達が、佐伯で働きたい、佐伯で働ける魅力ある佐伯を造る、また、戻ってこれる環境づくりが必要ではないかと思います。
- 委員：女性の社会進出が増えている。パート等で色んな時間で働き方があるが、保育関係で、子どもを預けたいのですが、6時までしか預かってもらえない。女性が働きやすい環境づくりが必要だと思います。子どもを産んでほしいということは、子どもを安心して預けられる体制を整えることが大事だと思います。また、自分の住む周りもアパートが増えたが、隣近所のつながりが気薄。子育てに関して、母親の負担が増えていると感じる。そういった母親のストレスを解消する場もほしいと感じます。
- 委員：子育てに安心して預けられる所が必要だと思います。地域力が落ちてきていると感じる。近所で面倒をみるとか、私たちが子どもの頃のような事が皆無になっている。もう少し近所で、地域のコミュニケーションがあってもいいのではないかと思います。
- 委員：この資料を見て佐伯市議会と佐伯市が連携とあるが、今の市議会（議会中継等）を見て足の引っ張り合いになっているように見えるので、連携してよい佐伯市に向かっていかないと思う。高いレベルで会議をもってもらえるよう希望します。市議会にもお伝えしたいと思います。議会を見ていてそう思います。よろしくお願いします。
- 委員：児童クラブ等、そういった条件を整えれば仕事はあると思いますか。
- 委員：雇用に関して少ないと思います。女性が働けるのもパートという部分が大きいですね。正規社員になりたくてもなかなかなれないのが現状だと思います。話しは変わりますが、第1次産業に就く人が減っていると思います。大入島にいと、漁師さんが子どもに継がせたくないということをよく聞きますので、それも寂しいかなと思います。やっていない私が言える立場ではありませんが、第1次産業あつてのことだと思うので、そういう所の労働人口が減っていくのは、佐伯市にとっても痛いのではないかと思います。
- 会長：これは、人が佐伯市に転入してくれたらどこかの県や市の人が減るということですよ。国の戦略でしないと、佐伯市はいいけど隣の市が減るという現象もあるわけですよ。だからいかに魅力的な佐伯市を造って行かないといけない。ということですね。
- 事務局：私ども事務局として思っていることは、色んな問題があるだろうと感じるんですけど、じゃあどこを、手を打つかということが一番悩みどころで、方法はあったとしてもなかなか市の予算だったり優先順位だったり非常にうまくできていない。でもこれまでと同じ政策では、平成72年には34,000人、目標の43,000人位に増やそうと思ったら何か積極的なことをしないと、今までどおりやっていたはだめだという認識は市の中にもある訳です。これまでやってきた結果として、佐伯市の人口も減っているし、日本中の人口も減っているという中で、佐伯らしいあり方を、知恵を出して頂いて、ここをこうしたらいいよという意見をいただけたらと思います。
- 委員：提案を1つ2つしたいのですが、定住人口を増やす、流入人口を増やすことが大事かなと思います。「ツールド佐伯」は、毎年1,000人以上の人が市外から来ます。色々イベントに携わったが、理想としてはマラソン大会やツールド佐伯とか、佐伯の特徴を活かした毎月1回1,000人以上くるようなイベントが出来たらいいと思う。イベントがたくさんあるまちに、人がたくさん来るのかなと思う。常に人が来るまちになれば、その内まちの魅力を感じた人達が、佐伯に住んでみようかなと言う人が増えればいいと思う。もうひとつは、佐伯の特徴をもった老人ホームがあったらどうだろう。私

が経営する老人ホームの1つは、毎月2回ご飯でおさしみを出していて「佐伯ならではの」ということで大変喜ばれます。もう1つは、毎月1回地元のおやつを、「挽茶まんじゅう」だったり、「城山まんじゅう」だったり、毎月だしている。そういう特徴をつくって福岡とか大都市では、老人ホームに入れない人が、佐伯という所は、まちの特徴を活かした老人ホームがあるよ。ということで、福岡の老人ホームとの値段の差は調べていませんが、毎月1回見舞いに来ても、佐伯の方が安いと思います。また、家族は見舞いついでに佐伯の観光をして帰える。そういう特徴を出した佐伯ならではの老人ホームができれば色々なメリットもあるのかなと思います。

会 長：はい、2つの具体的な提案がありました。それに関連して、1,000人の毎月のイベントというのはとてもいいと思います。それで、私も「泥んこバレー」とかイベントをしています。若い人の参加が多いです。先ほど委員さんが言われた、佐伯に泊まっていたいて「婚活」をしていくと、いいのかなと感じました。何か思いきったことをしないと、普通の流れではなかなか佐伯も注目を浴びないですね。

委 員：そういった意味でもチャレンジ事業を上限50万じゃちょっと出来ないなと。

会 長：チャレンジ事業も一括で予算を出すような事として、佐伯全体で盛り上がるというのもいいと思います。

委 員：大入島は、人が少なくなってきていますが、その分、空いた施設がたくさんあります。若い人がいない。中学校が隣にあるのに生徒が3人しかいない。とても寂しいし、来年には誰もいなくなる。そこに活気がほしいなど。昔は、「ハウンドドック」も来たことがあります。そんなことも出来たということは、今でもやろうと思えば出来るんですね。土地も広いしゆったりして、実際、職場の関係で若い人を呼ぶと、船に乗るだけで、ものすごく喜んでくれます。そういった意味でも、地域の方も含めて交流できたらと、大入島を活用してもらいたいと思います。

会 長：そういうのをチャレンジ事業で大入島が一体となってチャレンジをする。いろいろな所で、地域を活性化する。点が線になって佐伯市全体がよくなる。大入島も提案してください。

事務局：今チャレンジ事業で何が出来るかとかありますが、ほかにも色々な補助金を活用できる事業があります。私ども紹介できますので、日頃から情報をいただけたらいいかなと思います。

委 員：友人夫婦が定年で戻って来ましたが、その理由が佐伯は災害に強いと。地区は、地震とか災害の訓練をいつもしています。それを出して佐伯市に住んだら災害はあるかもしれないが、災害に強いよ。訓練しているよ。それを目玉にしたらいいと思う。絶対台風も来るし、地震もあると思うんですよ。私の地区は飽きるほど訓練します。保育園なんか月1回訓練しています。お母さんたちはそれで、安心して預けてくれます。

会 長：空き家対策事業はどうでしょう。あれも整備して載せると来ますね。私の住んでいる地域にも来ています。

事務局：市の空き家バンクに登録している件数は少ないですけど、実際は空き家バンクを利用せず、空き家に入られている人はそうとういますね。

会 長：知っている人が行くと貸してくれるとか、その辺をうまく整理して使っていくと、災害の少ない佐伯に、こういう空き家もありますよ。という感じで、そういうのもいいかなと思います。

委 員：人口シミュレーション案を見て、大変なことになるなど実感しています。私が勤めていた職場では、

何年先の人口をいつも確認しておりました。それが地域の活性化と連動してきます。前から思っていますけど、大分県でも全国でも成功例はあります。そういう成功例をよく検討して「まね」をして、それを佐伯も取り入れていく。だからこういうたたき台も文言はいいですが、これをいかに具体化していくか。例えば、何が出来るか10項目なら10項目どんどん決めていくんです。今、いろんな意見がでましたが、そして優先順位をつけてお金がかからなければすぐやる。そしてお金がかかれば費用対効果、そういうのを検討して行ってですね、その中でイベントを行ったり、具体的に人口を増やす施策というものをひとつひとつ、ピックアップして進めていっていただきたいと思いません。

委員：結局、人口減少が克服されれば、出産であるとか、若い人が集まれば全部克服される。佐伯市の場合には若者が働ける職場がない。企業が来れば若い男女が集まる。雇用の場が生まれれば人口も増える。出産とか子育てとか増えてくる。むずかしい問題だけど企業誘致して増える。それと「佐伯の殿様浦でもつ」といいますが、水産業に対して、もうちょっと浦々の活性化するような施策をとっていただきたい。島を売り込むというのも一つの対策で、若者が魅力ある島に来たい、定住したいという施策も創っていただきたい。口に出しているのは簡単ですが、なかなか佐伯市には企業が来ない。そういうことです。

委員：人口減少のことは、国がやっぱり主導で政策として、やってもらったらなと思いました。口に出して言わないだけで、市民のみなさん気持ちの中では、みんな佐伯をよくしたいと思っています。こういう問題は結論が出ないと思うけど少しでもいい方向に進んでいくように話して行けたらと思いました。

委員：まさに企業誘致だと思う。色々理由はあるでしょうけど、来ない理由を紐解いていかないと。イベントをやるのも大切だと思いますが、イベントをやる時にしか人が来ない。その時だけ金が落ちる。やっぱり住んでいただかないといけない。そのためには仕事だなあとと思います。来づらいような風土があるのか、若者が働ける企業が来ない。やっぱりそこを何とかやっていかないと人口シミュレーションのグラフの下の線をまい進していくしかないのかなと思います。

委員：小さいことから少しずつしないといけないのかなあとと思いますし、臼杵の竹宵みたいなすごいイベントがあるが、市がバックアップして、まちづくりにつながる大きなイベントも必要かなと思います。

会長：みなさんそれぞれ意見もありますが、これまでの意見をまとめて答申する形でよろしいでしょうか。

事務局：今いただいた意見を精査して、会長、副会長にご確認していただいて、答申という形で提出させていただきますと思います。冒頭申し上げましたとおり、もう一度、市の考え方がまとまりました時点でご意見をいただく場がありますので、その時には、またよろしく願います。それから会議は、こういう時間設定で行いましたけど、常日頃から事務局へお声かけをしていただけたらありがたいと思います。

会長：はい、よろしく願います。では、これで第1回佐伯地域振興審議会を終了したいと思います。本日はおつかれさまでした。気をつけてお帰りください。

9 会議の資料名一覧

- ・佐伯市地域振興審議会の設置について
- ・佐伯市地域振興審議会条例

- ・佐伯市活性化チャレンジ事業補助金交付要綱新旧対照表
- ・まち・ひと・しごと創生の概要について
- ・佐伯市人口シミュレーション案
- ・佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台
- ・人口に関する資料（別冊）

10 問い合わせ先

担当課 佐伯市役所 地域振興課 地域振興係
電話番号 22-3486